福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110～120周年
標　語
共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日　第3種郵便物認可（毎月一日発行）
2022年11月1日（火）第821号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人 / 中江洋一・編集人 / 金 柄 鎬
印刷所　青丘文化社

説　教

それでも走り続ける

＜コリントー 9：24～27節、イザヤ40：31＞

高　　誠 牧師（岐阜教会）

秋の清々しさを感じるこの時期になると子供の頃、教会学校に行く前に家で見ていたテレビ番組「おはよう！サンデー（日テレ、子どもマラソン）」のBGM「Titles」が思い浮かびます。しかし、この曲がオリンピック金メダリストであり、後に中国で宣教活動を行ったスコットランド人「エリックリデル」の伝記映画「炎のランナー（Chariots of Fire）」のテーマ曲だったことに気付いたのは、ごく最近のことでした。

さて、ずば抜けた才能で「空飛ぶスコットランド人」と呼ばれたエリックリデルは、1924年第８回夏季パリオリンピック短距離走（100メートル）の英国代表として選ばれますが、パリへの出航の日、突然記者から彼の出場する予選の日が日曜にあたることを知らされます。しかし彼は主日に競技をしないと決めていたので、なんとか競技の日程変更を掛け合ってもらおうと努めますが、かえって親善パーテイーの折に皇太子やオリンピック委員会の要人などから祖国への忠誠のため必ず出場するようにと何度も念押しされるようになります。

それでも、エリックリデルは信仰を第一にしていたので、大会の出場をきっぱりと断るのですが、国を挙げてメダルの獲得を期待されていた分、この一件は新聞にも大々的に報じられセンセーションを巻き起こすようになります。彼にとって走ることは、もとから国とか個人のレベルではなく、与えられた強靭な肉体を駆使して神に栄光を捧げ、その素晴らしさを証しする「伝道」であったのです。その結果、100走は辞退したものの、400走で金メダルを獲得するようになった。というのがこの物語のあらすじになります。

エリックリデルの逸話は、しばしば「主日聖守」の例話や、中国での伝記（宣教中、日本軍に抑留された収容所で酷い扱いをされても最期まで彼を苦しめた日本軍を愛した）をもとに「敵愛」のネタとして用いられていますが、一歩離れて考えますと、この話しが映画にまで登場するようになったきっかけは、信仰理解が一般的だった欧米社会によるものであり、映画も華やかにアカデミー賞を飾った作品だったため、日本でも「信念を貫き、逆境を乗り越えて見事に勝利した一英雄」を垣間見る「洋画」として興行し、その主題曲すら各種アスリート競技のテーマ曲として使われるようになったものだと思います。

一方、もしこれと同じ出来事が「集団性」を優先する日本社会で起きていたらどう思われたのでしょうか。おそらく、主日を避けた別の種目でメダルを獲得したとしても決して光を浴びることなく、信仰的決断も個人の変わった趣向として別物扱いされていたのかもしれません。そういう状況の中、日本で信仰を行うマイノリティーとしてこの物語はどういう意味を持つのでしょうか。

教会の高齢化と人口の減少が著しく進み、次世代への信仰の継承が切実に求められている今、主日聖守が第一であることはわかっていても、一部を除いては日曜出勤を余儀なくさる上、CSの子どもは一定の時期になると徐々に部活や受験などで教会から離れていきます。天皇制をもとに日常であるはずの信仰そのものが「非日常」と見做される「目に見えない緩やかな迫害（宗教性の理解が皆無としか言えない現状）」のただなかに根を下ろした私たちにとって、エリックリデルの歩みは、「主日を聖守した行為」よりは「それでも諦めずに最後まで神とともに走り続ける」者への励ましになるのではないでしょうか。それは、たとえ諸事情で信仰活動に制約があったとしても、神に選ばれたこの世の寄留者として（ピリピ3:20）この世に望みを置くのではなく本国を天に持つものとして（イザヤ40:31）ひたすら主に望みをおき、挫けそうになっても新たな力を得て信仰の道を走り続ける私たちに向けられた慰めの物語であると思うのです。

エリックリデルは、み言葉に（Ⅰコリント9:24～27）に従って、スプリンターとしても、宣教師としても決して立ち止まることなく信仰の道を走り続けました。そして、その走りの中には確かに生きた神が共に働いてくださったのです。しかも決して信仰を強制することなく、その生き様の中にまことの神であるキリスト・イエスの姿が顕現し、命を生かすものとしてあり続けたのです。

同じく、信仰が非日常と見做される私たちにとっても、その中心にイエス・キリストが生きていて、神の栄光のために働き続ける時、主がより強く力付けてくださるのではないでしょうか。

新型コロナウィルスが蔓延しはじめてから２年半が過ぎ、礼拝や教会の各種集会は、今や「対面」と「リモート」が併用されるなど、新しいかたちへと変わりつつあります。しかし、それでも変わらないことは、私たちの内に神が生きておられること。神がそういうわたしたちが弱まることなく、疲れることのないように力付けてくださることだと思います。そのことを信じて、それでもこの道を走り続けるとき、非日常と思われている私たちの信仰が、必ず日常を超えて神の栄光で満ち溢れるものへと変わることだと信じています。

免職長老赦免判決文

在日大韓基督教会 治理委員会は、聖書・在日大韓基督教会憲法・規則・戒規・裁判規定に基づき、教会の神聖と秩序を維持するために慎重な審理をした結果、以下のとおり判決する。

請願人：在日大韓基督教会 東京教会 臨時堂会長　具滋佑
対象者：李秀夫、村上春城、劉大根、金涇準、呉大錫

主　　文

対象者全員に対する免職の懲罰を赦免する。

2022年11月３日
在日大韓基督教会 治理委員会
委員長　梁栄友
委　員　張慶泰、朴栄子、金聖孝、李大宗、裵良一、林英宰

第2回常任委員会開催

カナダ在日宣教100周年記念準備委組織

第56回総会期第２回常任委員会が、去る2022年10月10日、KCC（大阪）にて対面会議で開催され、常任委員24名の中21名、特別委員長２名が参加して各種報告や案件審議などが行われた。

審議され、決議された主な献議案は以下の通りである。

(1) 東京教会が要請した「免職長老の赦免（解罰）」の件のために治理委員会を組織した。
梁栄友牧師（委員長）、張慶泰牧師（書記）、朴栄子牧師、金聖孝牧師、李大宗長老、裵良一長老、林英宰長老

(2) 関西地方会の、「関西地方会規則変更」の件を承認し、第57回定期総会に提出する。

(3) 20年以上活動がない「KCCJ社会福祉連盟」の解散を承認し、残金約100万円を「麦仁道基金」の約76万円と合算し、「麦仁道基金」として続けてカナダ長老教会との交流や協力活動をする。

(4) カナダ長老教会の在日宣教から2027年で100周年を迎えるにあたり、100周年記念事業準備委員会の結成を第57回定期総会に上程する。

(5) 第57回定期総会は、日程：2023年10月8日（主日）～10日（火）、場所：東京教会。

西部女性会

武庫川で一日研修会開催

とりなしの祈りカードで各自１年間祈り

西部女性会の研修会を10月18日（火）に武庫川教会堂で行った。例年は秋に一泊修養会を企画するのだが、コロナ禍のため半日の研修会となった。

１部は尹豊子副会長の司会で礼拝を捧げ、全国女性会総務の石橋真理恵伝道師から「財産を預けた主人」（マタイ25：14～19）と題したメッセージがあった。２部は徐栄珣宣教社会局長の司会でゲストに堺教会の徐聖瓊執事を迎えて讃美と証があった。ピアノの弾き語りと共に、主なる神が祈りに答えて最善な道を備えてくださったという徐聖瓊執事の証を聴いて多くの参加者が涙した。

３部は祈りのひとときとして梁律子会長の司会で行われた。「とりなしの祈りカード」に各自の祈りの課題を書き、それを他の参加者が受取り、その人のためにとりなしの祈りを１年間続けていくという初めての試みである。また西部地方会は13教会２伝道所のうち牧師のいないところが半数近くあるが、各教会・伝道所の信徒や臨時堂会長からも「とりなしの祈りカード」へ事前に祈りの課題を書いてもらった。１年後にそれらの祈りが聞かれることを期待する。

（報告：崔美恵子）

KCCJ 西宮教会 牧師招聘

教会の未来のために共に働いで下さる方

連絡先：shukoshinozaki@gmail.con

臨時堂会長　尹鐘憲牧師

川崎教会

新築会堂献堂式挙行

1947年開拓以来、3度目の会堂新築

2022年10月９日、川崎教会において新築会堂の献堂式が行われ、喜びを分かち合った。

堂会長の李相勁牧師の司会によって礼拝が始まり、関東地方会長の李明忠牧師が、「神様と出会うことが出来る教会堂」（列上８:41～43）との題で説教した。

川崎教会は1947年東京教会が、在日同胞が多く暮らしている川崎に伝道所を開設し、民団事務所などで集会をしていたが、1951年に現在の所在地の土地128坪を購入し、1952年に初めての会堂を建築し献堂式を行った。

1969年には教会併設の桜本保育園の開園に伴い、２回目の会堂を建築し、1974年に献堂式を行った。今回は３回目の新築会堂となる。

東京希望キリスト教會

許壬会長老就任式挙行

執事、勧士任職式・勧士引退式も

2022年10月９日、主日午後に東京希望キリスト教會で、許壬会長老就任式および、執事按手式、勧士就任式、勧士引退式が行われた。

堂会長の具滋佑牧師の司会によって開会された礼拝には西新井教会の金容昭牧師が「主の恵みですと告白する人」（Ⅰコリント15：10）という題名で説教が行われた。

引き続き行われた任職式は、任職者に対する具滋佑牧師による誓約があり、祈り、宣言が出され、許壬会長老が視務長老に、方哲熙、徐健一、李孝潼、３名が按手執事に、崔錦順、金愛利、李貞善、韓金朱、４名が勧士になった。また長年教会に仕えた柳香姫勧士の隠退の宣言もだされた。

この度、視務長老として就任した許壬会長老は、1962年韓国で生まれ、2016年に東京希望キリスト教會へ移籍して仕えてきた。

船橋教会

徳丸和博、池永浩長老将立

教会設立70周年記念感謝礼拝も

丸徳和博長老

池永浩長老

2022年10月16日、主日午後に船橋教会において、教会設立70周年記念感謝礼拝と徳丸和博、池永浩長老将立式が盛大に行われた。

礼拝は、堂会長の張慶泰牧師の司会で開会され、具滋佑牧師による「新しい教会、新しい僕」（行17：10～15）という題の説教がなされた。

長老将立式は関東地方会長の李明忠牧師の司式により、紹介、誓約、按手祈祷、宣布で進められた。

この度、船橋教会の長老として将立された徳丸和博長老は、1970年日本の熊本で生まれ2009年から船橋教会に出席し執事として仕えた。池永浩長老は、1975年中国で生まれ、2014年から船橋教会に出席し執事、按手執事として仕えた。

＜救済基金委員会からの報告＞

表１．救済基金（2021年9月～2022年年8月）会計報告

収入の部　単位：円		支出の部　単位：円	
項　目	金　額	項　目	金　額
		救済基金の支給(10名)	2,340,000
		支払い手数料	7,555
小　計　①	0	小　計　②	2,347,555
前年度繰越金	68,472,628	次年度繰越金	66,125,073
総 合 計	68,472,628	総 合 計	68,472,628

貸借対照表　　2022年8月31日現在

資産の部		負債の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
【現預金】	54,865,318		
ゆうちょ銀行　普通預金	14,384,880		
SBJ銀行　定期預金	40,480,438		
【貸付金】	4,759,755		
総幹事住宅　建築資金	4,759,755	負債合計	0
【立替金】	6,500,000	純資産の部	
沖 縄 教 会	6,500,000	【繰越利益剰余金】	
		前期末残高	68,472,628
		当期純損失(①－②)	-2,347,555
		当期末残高	66,125,073
		純資産合計	66,125,073
資産合計	66,125,073	負債･純資産合計	66,125,073

募金の振込先　　ゆうちょ銀行
記号 10180　口座番号 00569901
名称　在日大韓基督会総会（救済基金）

2022/10/10　救済基金員会委員長　金秀生

表2.対象者数と救済基金が枯渇する年数試算

年金基金の残額		66,125,073	基金枯渇年数
支援額/月	対象者数	支出／年	
30,000	10	3,600,000	18
	15	5,400,000	12
	20	7,200,000	9

【対象者】担任牧師及び、総会機関(KCC、総会事務所、RAIK全国教会女性連合会)において経歴期間合計10年以上あり退職された教役者とその遺族配偶者の方で、年齢（70歳以上）や収入（156万円以下配偶者含）条件があります。該当する本人または、その知人がおられましたら、各地方会の任職員、救済基金委員をお訊ね下さい。
毎年申請制で総会期決算の８月中の申請と各地方会任職員会の承認が必要です。

【申請方法】毎年の申請制で、収入条件には市区町村が発行する昨年分の所得証明書が必要です。各地方会の任職員会で毎年8月までに対象者の認定を行った後、救済基金委員会で給付の受け付けを行います。

【基金について】旧年金基金の解散、清算後の残金を活用して、隠退後の教役者と遺族師母任の生活支援を目的に設定（一律3万円/月）されました。基金の会計状況は福音新聞で年に一度お知らせします。

【募金について】現状では収入がないために、約18年以内に基金は枯渇します（表2）。今後、受給者の増加と共に基金枯渇年数は短くなります。これから基金設立の主旨に賛同される個人や教会から献金を募り、基金永続化の活動を救済基金委員会で取組みます。全国信徒の皆様のご理解とご支援、よろしくお願いします。

●KCCJ 2022 年 教役者・長老修養会（zoom による）●
生きづらさをかかえつつ、新しいつながりを求める
2022.11.23（水・休）午後 1 時～3 時 45 分（参加費無料）

"エマオという村"　G. Rouault

「希望ってなんですか」と真剣に問うてくる青年がいます。教会にかかわる私たちも、日々、生きづらさを感じながら、忙しさにかまけてやりすごしているということはないでしょうか。貧困、格差、ほんとうは理由がはっきりしない忙しさ……。そのような日常でかかえる不安や苦しさを、教会は十分にすくえているだろうか。日頃、家庭でも、教会でも「声」にならないことの多い、それぞれの想いを持ち寄って話し合ってみませんか。
私たちは在日一世が生き抜いた絶対的な貧困の時代とは明らかに違う時代を生きていますが、誰もが人生の旅を旅する「旅人」として、経済的な貧困ばかりでなく、魂や心の貧困を経験しながら、わきでてくる切実な祈りをもっていることと思います。私たちの歴史に通底する切実な祈りをかえりみながら、どのような人びとの連なりをつむいでいけるのか、ともに考えてみませんか。

梁陽日氏（大阪教会長老）：信徒委員長、同志社大学講師。精神・知的・発達障がいを対象にしたグループセラピーをはじめ、相談支援や心理療法と併せて加害者更生に専門家として取り組む。信徒委員長として全協の立て直しに奔走する。青年や信徒がおかれている「生きにくさ」の現状をみつめ、かけがえのない「いのち」をみつめるワークショップを行います。

金耿昊氏（横須賀教会執事）：歴史学研究者。青年会全国協議会 2010 年度代表委員。近著、『積み重なる差別と貧困』（法政大学出版局、2022 年）が注目されている。全協の活動、教会生活、子育てなどの経験や、過去と現代の貧困のあり方をみつめることを通していまどのような共同体が求められているのかお話しいただきます。

プログラム

＊修養会は zoom で行われます。所属教会、牧師・伝道師 / 長老 / その他の別を記入して lee91sd@gmail.com に送付して下さい。zoom の ID などを折返しお知らせします。

1．開会の祈り　開会のあいさつ／目的と流れの説明
2．「生きづらさ」を見つめのりこえるためのワークショップ（梁陽日氏）
3．小グループによるわかちあい
4．発題「貧困の時代につながりを求める」（金耿昊氏）
5．質疑応答・ふりかえり
6．閉会の祈り

●問合せ：李相徳牧師（三次教会）
●申込み：以下のメールに所属教会、牧師・伝道師 / 長老 / その他の別を記入してお申込下さい。　lee91sd@gmail.com

主催：在日大韓基督教会教育委員会　協力：信徒委員会

＜第11回WCCカールスルーエ総会参観記＞(2)

―キリストの愛が世界を和解と一致へと動かす―

総会会場の出入り口付近には、小さなテントがたくさん並べられた一角があった。そこはドイツ語で「ブルンネン」(Brunnen井戸という意味)と呼ばれ、様々な教会や関連団体が広報活動のためのブースを出していた。ブルンネンは、その名が示しているようにエキュメニカルな「交流と疎通の場」であり、前回の釜山総会では「マダン（広場、庭)」と呼ばれていた。前回の釜山総会（2013年）では、KCCJ女性会がブースを設け、在日コリアンの歴史や抱える諸問題をアピールすることができたが、今回KCCJ専用のブースを設けることは叶わなかった。しかし、韓国から参加したNCCK（韓国キリスト教会協議会）がブースを出していることを知り、急遽協力を要請したところ、快くKCCJとマイノリティ宣教センターの冊子を置くためのスペースを提供してくれた。

NCCKは、朝鮮戦争終戦のための署名運動「朝鮮半島平和宣言」(Korea Peace Appeal)を行っていた。平和宣言の内容は以下の4つである。①朝鮮戦争を終わらせ、南北が平和協定を締結すること、②核兵器も核の脅威もない朝鮮半島と世界をつくること、③制裁と圧迫ではなく、対話と協力によって葛藤を乗り越えていくこと、④軍拡競争の悪循環をやめ、市民の安全と環境のために投資すること。朝鮮半島にルーツを持つ我々 KCCJも同じ祈りに心を合わせるディアスポラのキリスト者としてNCCKが行う署名運動に喜んで協力した。

総会期間中、大勢の参加者と地元市民がNCCKのブルンネン・ブースに足を運び、朝鮮半島分断の歴史と現状に関心を示していたことは、嬉しい驚きであった（1,000件以上の署名が集まった)。ブースでは、世界各地から来たキリスト者たち、また通りかかった地元の市民たちに、朝鮮半島分断の歴史と現状を説明し、意見を交わし合う機会が与えられた。私たちKCCJ参加者は、朝鮮半島分断のコンテキストの中に在日コリアンとKCCJが存在していることをアピールし、その流れの中で、我々の歴史を語ることができた。

ブルンネン・ブースで出会った多くの参加者たちの中で特に印象深かったのは、ベルリンの壁崩壊を経験したドイツ参加者の関心の高さであった。あるドイツ人牧師は、「当時、自分はまだ小学生であったが、東西ドイツが一つになるというニュースを見た時の衝撃と喜びを今も鮮明に覚えている」と話した。また、ブースを訪れた多くのドイツ参加者たちが共通して語っていたことは、統一を可能にした重大な要因として「東西ドイツ教会の祈りと行動」があったという指摘であった。彼らの言葉は、我々 KCCJが「どれほど真剣に朝鮮戦争の終戦と平和のために祈り行動してきたのか」という厳しい「問い」として、またそっと背中を押す「励まし」として響き渡った。

朝鮮戦争の終戦と平和のための祈りと協力の呼びかけは、総会期間中、NCCKを中心に様々な形で行われた。代議員たち（delegates）が主題ごとに23のグループに分かれて対話するエキュメニカル座談会（Ecumenical Conversations）には、「正義ある平和へのエキュメニカルな召命」(Ecumenical Call to Just Peace）という主題が設けられており、その座談会においてNCCK総務は、2013年の釜山総会以降の朝鮮半島情勢を伝えると共に、そこから見えてくる今後のエキュメニカル運動の方向性に関する７つの具体的な提言も行った。

またNCCKは、ブルンネン・ワークショップを開催し、カナダ連合教会のペティー・タルボット氏の司会のもとで、Yi Kiho（イ・キホ）韓神大学教授による基調発題「戦争か平和か、韓国の転換点:休戦からの長い道のり」がなされた。同発題では、休戦から平和条約へと向かう「朝鮮半島終戦宣言」について説明し、市民社会と教会が平和イニシアティブを持つことの重要性、さらに自国第一主義や安全保障を超えて全地球的平和と繁栄を目指す市民社会の連帯の必要性が主張された。

NCCK以外では、韓国基督教長老会（PROK）が「南北和解と統一のための平和統一祈祷会」を開いた。PROK総会は、東西ドイツ分断の時期にライプツィヒのニコライ教会で始まった祈祷会が統一への希望を育んだことから学び、2014年から月曜祈祷会を続けている。統一を実現させたドイツの地で迎えた平和統一祈祷会は、第269回目となった。この祈祷会には、アグネス・アブームWCC中央委員会議長も出席し、朝鮮半島の平和と和解、統一へと向かう旅路においてWCCができることがあればいつでも積極的に支援すると語った。祈祷会中に執り行われた聖餐式では、パンを4つに裂き、それぞれパンは、「キリストの聖なるからだ」、「北の地の同胞」、「苦しむウクライナとミャンマーの国民」、「うめき声をあげる生態系」を象徴していることが告げられた。祈祷会の最後には出席者全員が「我らの願いは統一（ウリエ・ソウォヌン・トンイル)」を歌い、平和への願いに心を合わせた。

総会期間中に様々な形でなされた「朝鮮戦争終戦と平和実現」のための呼びかけは、一つの形として残された。WCCの公共問題委員会（Public Issue Committee）は、公文書として「朝鮮戦争終戦と平和構築に関する議事録」（Minute on ending the war and building peace on the Korean Peninsula）を採択したのである。注目すべき内容としては、WCC加盟教団とパートナー教会が、<朝鮮半島平和統一のための共同祈祷主日>、<朝鮮半島平和統一と協力のためのエキュメニカル・フォーラム>、<朝鮮半島終戦平和キャンペーン>を通して積極的に支持と協働していくということである。この議事録の採択によって、世界教会は朝鮮半島とそこにルーツを持つ諸国の教会との連帯を改めて確認した。

なお、「朝鮮戦争終戦と平和構築に関する議事録」（Minute on ending the war and building peace on the Korean Peninsula）の全文（英文）は、以下のウェブサイトで閲覧できる。https://www.oikoumene.org/resources/documents（次号へ続く）

（報告：WCC総会参加者一同）